

北海道大麻高等学校 三上武久

裁量問題が教えるもの 大麻高校はH21年度、学校裁量問題を実施しなかった。その結果、思った通り数学嫌いが集まった。(私もその決定に加わったのだが・・・)今年の大麻の一年生は例年の一年生に比較して著しく数学・英語の学習意欲が欠如しているという職員の評判である。ちょっと多目の宿題や課題を出したりすると「裁量問題！」(今年の生徒はやたら体言止めで表現する。これも「ゆとり教育」の成果か?)という言葉が返って来る。これはどうやら(舌足らずの彼らの言葉から推量すると)「裁量問題を採用しなかったんだから、数学が出来ないのは当たり前でしょう。」という意味らしい。

また「北海道だよっ！」と言ったりもする。これは「全国最下位グループの北海道の高校生なんだから先生方がいくら頑張っても、所詮わたし達(生徒達)の能力には限界がある。従って期待しないでくれ、(数学が)出来ないのは当たり前だ。」という意味らしい。生徒はあらゆる都合の良い言葉を盾にしながら、学習させようとする教師から弱い「自分」を防御しようとする。

現場の教員の力だけでは学力向上は限界がある 高校数学教員歴約30年の結論。力づくで無理やり三年間嫌々勉強させても、やっと北大レベルに届くか届かないかというレベルに留まる。大学に入った途端、彼らは勉強を止める。大学入学以後勉強・学問をしない。何故なら彼らの学習の目的は大学に入学することだけだったからである。国家の役に立つ人材になろうとか、「自ら意欲的に勉強するレベル」には程遠い。我々は「ゆとり教育」も食い止められなかったし、現場の教員の力では「地すべりの学力縮退却現象」を食い止められなかったではないか？。結局日本の高等学校は企業・会社などの現場で使い物にならない人間ばかり生み出している。不景気で人を雇う余裕が無いなんて嘘である。実際は使い物にならない意欲・体力に欠けた若者ばかりなので雇う方が二の足を踏むのであろう。中国・韓国などは有為・優秀な人材を沢山生み出している。これらの国家の発展がこの事実を裏付けている。

携帯ブログ・ゲーム機は教育環境悪化の最大要因である 携帯電話も個人の使い方次第という理解者がましい態度・立場を取るのもう止そう。先生方もご存知の通り、現実はまだそんなことを言って居られるレベルはとっくの昔に過ぎている。どの位、生徒達が携帯電話の書き込み・メールの返事に時間を費やしているか、先生方は良くご存知であろう。その結果、論理的思考・落ち着いて考えることが出来ない頭脳構造の子供・生徒が物凄いペースで殖えている。もう政府レベルで小・中・高段階では携帯電話は全面禁止にしたらどうか？

日本の中学・高校・大学生の数学レベルは現時点では高くない はっきり言って低い。国際機関の各種の学力調査が事実を物語っている。中国・韓国に負けているのは当然として、世界の国の中でも平均以下ではないか。トヨタ車のリコール問題は決して偶然ではない。国民全体の「知的レベル」が落ちている。私は北海道の高校の数学教師として約30年間現場で頑張ってきた。中国・韓国の数学教育者に負けないように頑張ってきたつもりだが、残念ながら支えきれない。彼らに負けた。大変悔しい思いである。教育のシステム自体が既に中国・韓国とは太刀打ち出来ないのである。特に韓国のシステムは優れている。韓国の指導要領には

「国家発展のための人材資源の開発という目的のためには、数学は科学技術の発展のための手段となる大切な教科である」とはっきり明記されている。数学を学習することで論理的、抽象的、創意的批判的思考力などを育成できるとしている。ここで注目して欲しいのは、「国家発展のため」と「国家」という言葉がはっきり書かれている点である。日本の指導要領のどこを探してもこの「国家のため」という言葉は出て来ない。

この「国家の為」という言葉が入ると入らないのとでは、学習者の motivation のレベルが全く異なる。またヨーロッパのドイツ、フランス、イギリスの「三国志」の伝統には、新参の日本はまだ及ばない。戦時下、高木貞治、岡潔がリードした分野もあったが、現在では一般の国民の数学を学ぶことに対する意欲の水準はこれらの国々に比較して低い。

複素関数論の分野では辻正次・小松勇作、寺沢寛一(何れも戦前生まれの人)以来優れた演習書・教科書は日本では出ていない。数学の分野でリード出来るためには複素関数論の最新の学問成果を取り入れた優れた「演習書読み」の習慣が必要である。特にドイツ国民の数学に対する敬意・理解は徹底している。

問題把握力(国語読解力不足)+計算力不足+熱い心(愛国心)不足 我々数学教育者はキャッチコピーやその類が面白ければ生徒は自発的・意欲的に学習するものだという思い込みが強過ぎなかったか？その刺激により、学習意欲が生徒の中で内在化されて大学以上の数学に突き進んで行ったことがかつてあったのか？ありえなかったのではないか？もっと抜本的に「学問は国家の発展に役に立つ」という主たる目的を堂々と教えるべきではないか。個人の幸せ追及が学問の主たる目的だということになると(現憲法下では正しくこの目的が謳われている)「自分ひとりの幸福は程々のレベルで良い」という従来の低い学習の動機付けレベルから永遠に脱出出来ない。

戦後教育において、愛国心が学習意欲の大部分(9割)だということは意識的に避けられて来た。代わりに「個人の幸福追求」である。ここからあらゆる醜い学問の私利・私欲目的が始まった。大学以上の数学学習・研究意欲は日本国家の役に立ちたいという動機付けが無ければほとんど無理ではなからうか。(高木貞治、岡潔、小平邦彦・佐藤幹夫等世界的レベルに達した人は皆そのような教育を受けていた。)

**数学を面白いと思えるには、10年以上数学の修練(じっと我慢)が必要**

大学以上の数学は、基礎的修練に非常に時間が掛かる。それなのに高校の内容がせいぜい実関数の微積のレベルで良いのだろうか？複素関数論。行列論は不可避ではなかろうか？耐える訓練が必要である。面白さを感じるに至るまで我慢が必要。数学を学ぶことの国家的意義がまったく教えられていない。それにしても時間が不足+教えられる教員不足+内容不足・・・。

**現状では自学自習は絵空事** いくら教師が力んでも、生徒・学生が他力本願(この国の発展は誰かが面倒見てくれる。何とかしてくれる)では本気になって学習しはしない。その場しのぎで成り行き任せに終わり、日本は滅びる。自分の足で立てこそ、真に学ぶ覚悟が定まる。現在のように米国に国防をまかせっきりになっている状態では、真に学ぶ意欲を持つ若者は生み出させられる可能性・素地は全く無い。(数学は英・独・仏の三国志により発展して来た面が多分にある。)

現在の状態のまま進行すると最後には、真面目に勉強する生徒を嘲笑する悪しき最悪の状態に行き着くであろう。現高校生の中には「真面目な性格・気質の人間」は面白くない(悪である)と本気で考えている者が既に大勢いる。(作文・小論文にそう書いてくる生徒がいるのでビックリすることがしばしばある。)

**数学に向く者と向かない者がいるという認識が必要** しかしながらエプシロン・デルタ論法や整数論の相互法則等大学の数学内容が国民全員が、理解できるという発想はやはり無理があろう。やはり知能的に無理だと思われる人が数パーセントいる。これは自然統計的事実である。

高校についてはこの度の東京都のように、土曜日に授業を実施するかどうかは学校長に任せてはどうか？そもそも数学の学力が落ちたのは土曜日に授業を行わなくなってからだ。部活を主に土曜日にやりたい高校は、その高校の判断に任せれば良い。スポーツで国家に貢献することも必要だ。

**学力向上の最大の決め手は愚か者を首相や文部大臣の椅子に座らせないことだ！** 最終的に国民全体の教育レベル・数学レベルが国家の盛衰を決めるという認識を持っている者で無ければ任せられない。教育の最高指導者(国家レベル)は数学者か数理に優れた者以外はその椅子に座らせないというシステムの確立が必要である。

**藤原正彦先生を文部大臣・総理大臣にしよう！** 賛同される方のみ是非メールを。これはずっと私が考えていたことです。これ以外日本再生の道は無い。

[onbei@amail.plala.or.jp](mailto:onbei@amail.plala.or.jp) 三上武久(大麻高校)のメールアドレス。